

# ヨーロッパとアジアにおける神話から文化への影響

3年3組 52班

## 研究要旨

文化の背景として神話が存在すると考え、文献を中心に調査を行った。

ギリシャ神話と日本神話には類似する話があり、インド神話は他の神話とは違う特徴を多く持っている。

ヨーロッパとアジアの文化は、光と陰のどちらかを重視するかが大きな違いだ。原因となるようなものは分からず、疑問が多く残った。

キーワード 神話、文化、光と陰

## 1. はじめに

耳で聴かれた「神話」、目で体験された「美術」は、生身の人間の五感に訴えかけて、共同体を結束させる観念を表象する役割を果たしてきた。真理を語る神話と世界観を描き出す美術は、ひとつの精神文化を読み解くために不可欠な要素だ。神話に描かれた物語は人々の「心に想う真理」の表明であるし、美術に描かれた造形も人々の「思い描く世界観」の美的表現なのである(1)。

私たちは、それぞれの文化の背景には神話があり、精神性に影響を与えているのではないかと考え、神話と文化(特に芸術)の関係性を考察した。今ある文化だけでなく、昔から伝わる神話などをふまえてその国を知ることによって、より異文化理解が深まるとともに、その文化を尊重できるのではないだろうか。

## 2. 研究手法

対象をギリシャ神話、北欧神話、インド神話、日本神話とし、各神話の共通点と相違点、また、ヨーロッパとアジアそれぞれの文化の特徴を、建築、彫刻、絵画を中心に、本、インターネット、教科書、資料集の情報を基に調べ、比較していくことで考察していく。

## 3. 結果・考察

### ①各神話について、神話の特徴・比較

ギリシャ神話とは、古代ギリシャ民族が生み出した神話およびこれに関係する伝説の総称であり、欧州諸国の美術・文芸に強い影響を及ぼした(2)。

ギリシャ神話のオリュンポスの神々の最大特徴は、「神とは不死にして強力な能力を持った人間」というような性格を持っていることだ。つまりギリシャ人は自分達に能力を与えてくれる「能力そのもの」の象徴として「神」というものを考えていた(3)。

北欧神話とは、古代に北欧の大半を占めたゲルマン民族に共通する神話で、英雄伝説も含む(2)。

北欧神話では神々が争い、最終戦争ラグナロクでは最大の神であるオーディーンすらも滅んでしまう。これは北欧神話の特徴であるといえる。

日本神話とは、諸文献に残され、または昔噺・伝説などの口頭伝承にもみられる神話類である。記紀にみられる神話は、天地創造説よりは支配者たる天皇の祖

先に関する説話が多い (2)。

日本神話の最大の特徴は、最高神にある。日本神話では最高神アマテラスは女神であるが、他の多神教の神話では最高神は男である。また、アマテラスは天の神たちの最高神につく際に何の反対も受けていないが、他の神話では、最高神は神々の王の地位を、時には肉親を相手にして争い、勝ち取っている (4)。

インド神話とは、リグ・ヴェーダに記されたアーリア人の信仰する神々、バラモンによって編まれた古ウパニシャッド文献の神々、仏教やジャイナ教が発生して叙事詩に記された神々、そしてこれらの神々を包括する形でヒンドゥー教が形成され、完成したものである (5)。

インド神話では最高神は一柱ではなく三柱である。これは、他の三つの神話とくらべた際の、インド神話の最大の特徴である。また、インド神話の神々は手足や顔の数が多く、中には動物の頭をした神もいるが、他の神話では神々の多くは人間と同じ姿をしているので、これもインド神話の特徴といえるだろう。

## ②類似する話

日本神話とギリシャ神話にはよく似た話がある。日本神話では、イザナキが火の神を産んで死亡した妻のイザナミを黄泉の国から連れ戻そうとするが、イザナミの禁止に背いて妻の屍体を見たことによって、失敗する。ギリシャ神話ではオルペウスが毒蛇に噛まれて死亡した妻のエウリュディケを冥府から連れ帰ろうとするが、同じように妻を見てしまい連れ戻せなかった。更に死者が冥界で食物を摂取したため、帰還が不可能になったという話が、冥界訪問神話と結びついて組み込まれているのは、日本神話とギリシャ神話に特有のものだ (6)。

日本とギリシャでは全く文化が違い、それぞれの精神性を生み出した神話も共通する話はあまりないと思っていたが、どちらも妻の顔を見ることがと死後の世界で食事をしたことが失敗の原因となっている。この点に違いがあることで文化に違いが生まれると考えていたので、距離も遠く、後に異なる文化を生んだギリシャと日本に、なぜこれほど似ている話が伝わっているのかと思い調べたが、今回の研究では分からなかった。

## ③神話の世界観の共通点・相違点

私たちは、神話の共通点として、どの神話でも神がいる世界は天にあると考えられているのではないかと考えた。日本神話では最高神アマテラスは高天原を治め、北欧神話では神の国は天空にあり、ギリシャ神話では神々の王のゼウスは天の支配者なので、神は天空にいるというイメージはヨーロッパでもアジアでも変わらない。だが、インド神話では神が住む世界がどうなっているのかはわからなかった。逆に、死後の世界は良いイメージを持って描かれることが少ない、という共通点もあるのではないかと考えた。ギリシャ神話、北欧神話では、死後の世界は暗い、冷たい世界で、日本神話では、死んだイザナミの姿は醜くなっていたので、死後の世界はマイナスなイメージで描かれているとわかる。インド神話では、世界は誕生した後に破滅し、また誕生するという様に繰り返されるものであったので、インド神話にはそもそも死後の世界というものが存在しないのではないかと考えたが、インド神話にも死後の世界はあり、その管理者は日本には閻魔大王として伝えられているため、インドでも死後の世界は恐ろしいものというブラマではないイメージがあると考えた。

この点から調べた時に、インド神話は他の神話と比べて、世界の捉え方に特徴があると感じた。

#### ④文化の特徴・比較

谷崎潤一郎は『陰翳礼讃』のなかで、日本の漆器や蒔絵は暗い中でこそ美しさが分かったと言ったが、これはアジアとヨーロッパにおける代表的な文化の違いを表していると私たちは考えた。

ヨーロッパ建築の中で代表的なものにシャルトル大聖堂やノートルダム大聖堂などがある。これらの建物にはステンドグラスやシャンデリアがあるが、これは光を取り入れることが必要なものであり、ヨーロッパの光を中心に考える文化の表れである。

対して、インドや日本の文化は光よりは陰を中心にしたものではないかを感じる。

例えば、インドの世界遺産の代表としてエローラ石窟群があげられる。

エローラ石窟群は 34 の石窟からなり、仏教、ヒンドゥー教、ジャイナ教の 3 つの宗教の寺院が共存し、一列に並んでいる。僧たちは、ヴィハーラ窟という石窟で生活し瞑想したため、ここには瞑想室が残されている。また、カイラーサナータ寺院は、100 年かけて 200 万 t の巨大な一枚岩から彫り出したものである(7)。

石窟のなかはヨーロッパの教会とは全く逆の環境である。光は制限されている上に、ステンドグラスのように華やかな装飾はない。これが最も代表的な文化の相違点であると考ええる。

#### ⑤宗教と芸術

彫刻、絵画についても調査を行ったが、研究の目的に沿う成果は得られなかった。しかし、この調査をしている中で宗教によって芸術が発展しているのではないかと思った。

日本やインドの彫刻は、仏像など宗教的な意味合いをそのまま持つものがほとんどであり、西洋の宗教画やステンドグラスなどは、布教に使われたり、信仰の対象であったりした。また、世界遺産に登録されている芸術的な建築を調べたところ、教会や神社など、宗教的な場所が多かった。

この研究の目的である神話と文化の関係性からは外れてしまうが、詳しく調べてみたい事柄だと感じた。

## 4. 結論・展望

今回の研究では、各神話や二つの文化についての様々な共通点や違いを知ることが出来たが、むしろ調べる内に疑問点が多く生まれてしまったうえ、それらを解消することは出来なかった。

神話にも文化にも共通点や違いが見られたが、神話が人々の精神性に影響を与え、それが文化として芸術などの面に表れるという観点で考えたときに、どのように神話が影響を与えたり、文化と結びついたりしているのかは、今回の研究では分からなかった。しかし、アジアでもヨーロッパでも神話の物語や宗教的な教えを伝えるために芸術を用い、ルネサンスの絵画などのように神話の物語に発想を得て芸術が発展していったのだということが分かった。

調べていく中で、文化は神話だけでなく、宗教と強い結びつきがあると感じた。

また、ヨーロッパでは宗教と神話が別だが、インドでは神話と宗教がほぼ同一

であった。宗教の違いは精神性の違いを生んで、文化の違いを生み出すと思うので、宗教の観点からの調査もしてみたい。

今回は対象を絞りアジアとヨーロッパにおける比較とし、神話を各二種類ずつ、文化も建築、彫刻、絵画の点から調査・考察を行ったが、他の地域、神話についても関係性を調べてみたい。また、食や衣服、習慣など文化を他の点からも調べることで、さらに深く神話が与えた影響について知ることが出来るのではないかと思う。

## 5. 引用・参考文献等

### ①引用

- (1) SOLARIS WORKS SOLRIS WORKS REPORT 2017年7月30日  
[http://www12.plala.or.jp/solaris\\_works/reports\\_006.html](http://www12.plala.or.jp/solaris_works/reports_006.html)
- (2) Weblio 辞書 2017年8月8日 <http://www.weblio.jp/>  
世界宗教用語大事典 中経出版
- (3) 小澤克彦 神々の故郷とその神話・伝承を求めて 3. ギリシャ神話、その主題と旋律 2017年8月7日  
[http://www.ozawa-katsuhiko.com/3greece\\_syudai/greece\\_syudai\\_text/greece\\_syudai01.html](http://www.ozawa-katsuhiko.com/3greece_syudai/greece_syudai_text/greece_syudai01.html)
- (4) 吉田敦彦 (2006) 『雑学3分間ビジュアル図解シリーズ 日本神話』 P H P 研究所
- (5) 奈落一騎 (2005) 「インド神話」 東ゆみこ(監修者) 『「世界の神々」がよくわかる本 ゼウス、アポロンからシヴァ、ギルガメシュまで』 P H P 研究所
- (6) りんいちろう 2012 るいネット 日本神話とギリシャ神話の奇妙な類似 2017年8月7日  
<http://www.rui.jp/ruinet.html?i=200&c=400&m=262228>
- (7) 世界遺産オンラインガイド 2017年7月30日  
<https://worldheritagesite.xyz/ellora-caves/>

### ②参考

- ・(2006) 松村一男(監修者) 『知っておきたい世界と日本の神々』 西東社
- ・インターノーツ (2006) 保坂俊司(監修者) 『図解 よくわかる「世界の神々」』 P H P 研究所
- ・青柳正規 (2003) 『ビジュアル・ワイド 世界遺産』 小学館
- ・前田耕作 (2000) 『【カラー版】東洋美術史』 美術出版社
- ・(2010) 株式会社レッカ社(編著者)、一条真也(監修者) 『雑学3分間ビジュアル図解シリーズ 知ってびっくり!世界の神々』 P H P 研究所
- ・ヨーロッパ総合情報サイト EUROPA—エウロパー ヨーロッパの建築様式の特徴 2017年8月7日  
<http://europa-japan.com/category15/entry104.html>
- ・CBI partners Cross Border Implementation 欧米と日本の違い 2017年8月7日 <http://www.cbixborders.com/jp/japan-europe/is-different>